

令和2年度 一般社団法人建設産業専門団体連合会

WEB 全国大会

テーマは《建設技能の見える化と評価・処遇》

一般社団法人建設産業専門団体連合会(略称・建専連、才賀清二郎会長)は令和2年度の全国大会のテーマを《建設技能の見える化と評価・処遇の向けて～建設キャリアアップカードを処遇改善につなげるために～》と掲げてWEB大会で開催しました。(11月19日、東京・千代田区の一ツ橋講堂において収録、11月25日～30日HP公開)

才賀会長は挨拶で、新型コロナウイルス感染症対策のためホームページ上で視聴可能なWEB全国大会としたことを説明するとともに、「新型コロナウイルス感染症に留意しつつ、建設産業として災害の復旧・復興はもちろんのこと、国民の生活や社会経済を支えるため、不可欠な産業であり続けるために健全で元気な専門工事業者を産官学の関係者の皆様のご協力をお願いします」と述べています。

21回目となる今年度の全国大会は、「欧米に学ぶ担い手確保策と今後の目標」と題して、芝浦工業大学建築学部の蟹澤宏剛教授の基調講演が行われました。蟹澤教授は、建専連が国土交通省等の協力を得て2年間にわたり欧米諸国の建設技能労働者の処遇等の調査を行った視察団を先導されま

した。その視察により得られた情報に基づき、米国、仏国、英国の職業訓練や職人の処遇の現状と日本における建設キャリアアップ制度のモデルとなった英国のカード制度がどのように成長し、現場技能者がどのような評価を得ているのかについてのお話がありました。

基調講演の冒頭、「コロナ禍が去ったあと、建設業界がどうあるべきか。専門工事業界で働く人々が報われ、若い人が建設業界に入ってくる業界になるためにはどのような姿になっていくべきなのかを、外出もままならないこの時期にしっかりと考えていこうという宿題だと理解し、話をさせていただく」また、「英国のキャリアカード制度を模範とした日本の建設キャリアアップ制度の目指すべき方向と政策的目標をもって進めていく必要がある」と課題の指摘がありました。

